

「高血圧とSAS対策を」

OCHIS「両輪会」

健康起因事故防止へ

ヘルスケアネットワーク（OCHIS、武田裕理事長）は2月24日、ドライバーの安全と健康を推進する協議会「両輪会」を初めてウェブ上で開催し、北海道から沖縄までトラック運送など各社の担当者ら約40人が参加。ドライバーの高血圧

SAS対策で健康起因事故の防止をテーマとし、両輪会代表の作本貞子副理事長は「血圧はドライバーの心と体の健康状態を如実に表している」と測定的重要性を訴えた。

昨年調査した最新のデータでは、SAS症状があるドライバーは、症状がないドライバーと比べ起床時の血圧が高いことが分かった。また2020年度運輸ヘルスケアナビシステム報告書によると、ドライバーの2人に1人が高血圧で、SAS陽性者の6割が高血圧だった。

作本副理事長は職場、家庭での血圧測定を呼び掛ける一方で、ITやロボットなどの活用で点呼を巡る環境が大きく変化する中、体温、体重などドライバーの身体情報の収集が不足する恐れがあると注意喚起した。

事例報告では梅田運輸倉庫の岩崎小夜子相談役と行方運送の名雪馨安全衛生推進室長が健康管理の取り組みや課題などを語った。（遠藤 仁志）